

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立榎塚台小学校
校長 二橋 崇浩

中学校区におけるめざす子ども像										校長 一橋 宗正	
1. 自分・人を大切にできる子 2. 学ぶことを大切にできる子 3. 心と体の健康を大切にできる子											
令和6年度 重点目標 安全、安心、自信と夢を育む楽しい学校 ― 自分大好き・友だち大好き・学校大好き ―											
「確かな学び」の現状						「豊かな心・健やかな体」の現状					
昨年度、探究的に学ぶ子どもの育成をめざし、子どもたちにどのような働きかけが有効か、様々な取組を通して研修を深めてきた。今年度の研修主題を、「探究的に学習できる児童の育成～ひとりひとりに学びのある学習をめざして～」と設定し、学習活動に全ての子が主体的に参加することをめざしていきたい。						ほかほか言葉の木やきらきらみつけの活動などを、更に発展させ、自分や友だち、学校が好きになる教育活動を工夫していきたい。友だちとのつながりの中で、自分の思いを相手にしっかり伝えたり、相手のことをしっかり受けとめたりできる力が育つよう、様々な場面で粘り強く働きかけていきたい。					
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	知識・技能	生きて働く知識・技能をつける。	●「ひとりひとりに学びのある、探究的な学習」の実施。 ●ユニバーサルデザインの視点からの授業改善の実施。 ●一人一台端末を必要に応じて有効に活用する。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A ●各学年の研究授業を通して、ひとりひとりに学びのある学習にするための工夫を学ぶことができていいる。 B ●視覚支援をするなど、各クラスで実践に取り組んでいる。 A ●ICT担当がLーGateに表示される学習に使えるサイトやアプリを定期的に見直し、児童が活用できるように各クラスで取り組むことができている。	A ・教科学力を高めるために学習言語を大切にし、校内研修を進め、授業展開を図った。 A ・教材を工夫したり、ICT 端末を活用してどの児童にも分かりやすい授業を展開した。 A ・児童アンケートでは85%の児童が ICT 端末を使った学習に肯定的回答をした。校内研修で ICT 端末を活用した授業展開の共有を行ったことによって、昨年度よりも多くの授業実践ができた。	A	・ICT 端末の活用をこれからも進めてほしいが、発表の仕方に工夫が必要だと感じる。	
	思考力・判断力・表現力	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。	●友だちの考えをよく聞き・伝え合い、学習内容を深める。 ●朝の読書の時間や図書の時間に、じっくり読書する。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	B ●学びのコンパスの考えを取り入れ、児童自らが学び方を選んで取り組むことができるように工夫している。 A ●朝の読書タイムは全学年が、読書に向かうことができている。図書の時間には、司書教諭と連携を取りながら読み聞かせをするなど、読書が好きなようになる取り組みを実施している。	B ●児童アンケートの「友だちと考えを伝えたりきいたりして、学習している。」の項目では、78.8%であった。学びのコンパスの考えを取り入れた学習に取り組んできたが、より子どもたちが考え、伝えあるよう授業研究を積み重ねていきたい。 B ●朝読や図書の時間は読書に取り組んでいるが、主体的に読書に向かうことに課題があるので、主体的に読書に取り組む児童を育てていきたい。	B	・基礎学力の向上を図ってほしい。 ・グループ活動などを効果的に取り入れて、学び合いが高まるよう工夫をしている様子が見られる。	
	学びに向かう力	学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等を涵養する。	●好きな授業・教科が増えるように、好奇心を高める取組。 ●自己肯定感を高める取組。 ・家での自主学習が進む啓発や取組。 ★個別の支援の方法や合理的配慮の研究	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	B ●今日学ぶことは何かを明確にしながら学習を進め、ひとりひとりがどのように学習に向かっているのかを把握する必要がある。 B ●総合的な学習の時間では、外部の人材とのつながりを大切にし、成功した体験や、人を喜ばせることができた経験をたくさん積めるようにしている。 A ・毎月、「自主学習のキラキラノート」を昇降口に掲示し、他学年のノートを見られるようにしている。 A ★通級指導教室の開設により、支援学級には在籍していないが、生活面や学習面で困り感のある児童に個別の支援を行うことができるようになった。	A ●児童アンケートの「好きな授業や科目がある。」では、90.0%と肯定的回答であった。校内研修を通して、学習のねらいを明確にし、事前テストを実施して、一人ひとりの理解度を把握して授業してきた。今後も継続していく。 B ●自己肯定感(昨年度)に比べ、低い結果となった。しかし、保護者のアンケート結果では、高い結果がでた。保護者と子どもとの認識の差がでたため、保護者と学校で連携をし、自己肯定感を高める取り組みをしていきたい。 B ・家庭学習の手引きを各学期に配布したり、自主学習を昇降口に掲示したりと家庭学習に取り組もうとする意欲を高めてきたが、結果が下がっているのでより一層家庭との連携を進めていきたい。 A ★通級指導教室に入級する子どもが増えたことにより、個別の支援がより充実した。	B	・各学年の子どもたちの発達段階に合わせて授業がされている。 ・家庭での親子の関わりが少ないように感じる。学校から保護者への啓発が必要ではないか。	
豊かな心・健やかな体	豊かな人権感覚の育成	思いやりの心を育成する。	●ほかほか言葉、きらきらみつけができているか。 ・学校のきまり「榎塚の子の約束」の啓発。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A ●人権委員会の児童が朝礼などの場で全校児童に伝え、教師主導ではなく、児童もいっしょになってほかほか言葉を増やそうと取り組んでいる。 A ・生活目標と関連させて、毎月啓発するようにしている。	B ●ほかほか言葉など、人権委員会として啓発などをしたが、アンケートの結果は低かった。来年度は、たくさんさんの啓発活動ができるように、人権委員会主導で啓発活動に取り組んでいきたい。 A ・児童アンケートでは、身なりを整える項目や、掃除などの項目で 80%を超える肯定的な回答だった。今後も朝礼や児童会の活動などを通して継続的に啓発していく。	A	ほかほか言葉などの取り組みが素晴らしい。	
		感謝の気持ちを育成する。	・ありがとう等の感謝の気持ちを言える、仲間づくりや啓発。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	B ・人権啓発授業を各学年で公開し、友だちを認め合う姿を取り上げながら、仲間づくりに取り組んでいる。	B 児童アンケートの「ありがとうと友だちや周りの人へきちんと言うことができた。」の項目が89.7%と肯定的回答であった。保護者アンケートの「学校は、子どもたちの感謝の気持ちを育成している。」の項目は76.0%で、保護者と児童にギャップが生じている。様々な場面で、感謝の気持ちを自然と伝えられるように、今後も取り組んでいきたい。	B	今後も感謝をする気持ちを大切にしてほしい。	
		いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。	・いじめに対する感覚を高め、早期に発見・解決できるようにする。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A いじめ防止に関する研修に参加したり、学期ごとに生活アンケートを行ったりして、いじめの早期発見に努めている。また、早期解決に向けて、教職員で定期的な情報共有を行っている。	A 学期ごとに生活アンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。また、早期解決に向けて、教職員で定期的な情報共有を行った。今後もいじめ防止に関する研修や全校児童への啓発などを引き続き行うようにする。	A	引き続き取組を進め、いじめの根絶をめざしてほしい。	
	健康なからだづくり	体力向上を図る	・体力向上、健康な体作りに向けて、日々の体育授業などの充実を図る。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A なわとびカードやかけあしケードの情報提供と共通理解を図り、指導に生かしている。各担任の持っているアイデアや指導方法を全体で共有して各学級の授業に活かすようにしている。	A 児童アンケートの「体育の授業では進んで体を動かすことができた。」の項目が82.6%の肯定的回答であった。児童たちが活動できる時間を多く確保した授業、保健委員会の児童が企画した運動遊びの効果が表れた。また、本校の運動場の広さを生かせるように、環境整備をすすめていく。	A	体力向上は「知・徳・体」の一つの柱でもあるので、様々な工夫を凝らし、体力アップを図ってもらいたい。	
		生活習慣の向上を図る	・生活習慣を向上するために、毎月の生活目標などの啓発。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A 二測定時に保健指導を行ったり、ほけんだよりを活用したりしながら生活習慣の向上のための啓発を行う。また、毎月の生活目標を定期的に確認する機会を設け、よりよい生活習慣を身につけることができるよう指導をすすめている。	A 「早寝・早起き・朝ごはん」「手洗い・うがい」などについて、規則正しい生活が身につくよう、ほけんだよりでの啓発や個別の指導を行った。また、視力についての保健指導の実施や、視力検査後の受診勧告の啓発を行った。	A	日々の生活習慣がアンケート結果に表れるので、今後も継続してほしい。	
開かれた学校	地域連携	地域との交流を深める。 小中一貫した指導体制の確立	・学習活動の中に地域の人と連携した取組。 ・授業、研修などの交流	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A 地域人材や中学校の先生を招聘し出前授業を行い、授業内容を効果的にした。	A 地域人材や中学校教員、外部からの講師の授業は保護者・児童ともに肯定的回答が80%を超えている。特に、5・6年生の総合やキャリア教育については、継続的に続いており、今後も連携して進めていきたい。	A	地域連携や出前授業の良さを感じる。今後も継続してほしい。	
		学校の取組を保護者や地域へ発信する。	・ホームページや校報、学年通信などで、学校の取組の発信。	・達成状況 80%以上で A ・達成状況 50%以下で C	アンケート 実施報告、協議	3学期	A 毎日学校HPを更新し、学校の様子を配信している。学年毎に発信数に違いがあるので、各学年バランスよくHPの記事の数を更新できるように心がけたい。	A 「校報まきつか」や学年通信などで学校・学年の取り組みや連絡を発信した。また学校HPで各学年の様子についても発信し続けている。HPの学年ごとの発信数については、バランスよく発信していきたい。	A	廊下などの作品や掲示物もよい。	
校長より (年度末)							学校関係者評価から (年度末)				
・今年度、学校アンケートの質問項目を変更したので単純に比較できないが、肯定的な回答が昨年に比べ減少傾向となっています。今後、更に分析や検証を重ね、児童の実態に合った教育課程を編成していきたいと考えています。児童が、「できた、わかった」という授業をめざして研修を進めていきます。							・肯定的な回答を増やすために、家庭と地域、学校が連携・協力していくことが大切である。学校として、保護者や地域の協力が得られるように、取組等をいろいろな方法で発信していったほしい。親と学校がお互いに役割分担ができるような仕組みをつくってほしい				